秀明改

編　集
アンチカルト編集室
発行所
家族を新興宗教から守ろう
fujiyahoko@excite.co.jp

リセット

秀明会ＯＢが作っている秀明信者のためのページもご覧下さい

明主様の教えに反して　玉手山支部

秀明流に造り変えてま～す

神慈秀明会玉手山支部と言えば、「ああ、あの明主様のご指示に基づいて造られた由緒ある建物だな」ということは秀明会信者であれば大半の人が知っている。

ところが、その由緒ある建物本体や内部の御神体を奉斎している御神床が明主様の指示した形とは違った形に造りかえられているのだ。

建物本体はシロアリ被害等による老朽化のため、平成十三年に建て替えられたが、その際に大幅な改築がなされ、間取りも大きく変更されている。

最も肝心な御神体を奉斎する御神床は京都から玉手山に移設された際に大幅な変更が加えられ、何と明主様の御尊影を御神床の外に出してしまうという暴挙を犯している。

秀明会は明主様を拒否？

御神体改造、おひかり改造、教義改造に続いて神様を奉る御神床まで明主様の指示とは違う形に改造してしまう秀明会とは、本当に「明主様信仰」をしている宗教なのだろうか？

秀明会が行ってきたことは、ことごとく教祖・岡田茂吉が禁じてきたことばかりだ。むしろ明主様信仰を意図的に拒否しているようにさえ思われる。

なぜこれほどまでに秀明会や小山家は、教祖であるはずの明主様を嫌うのか？

明主様信仰をしてしまうと、小山家に何か不都合なことでもあるのか！？

改造前

【写真説明・右】明主様のご指示に従って造られた玄関。赤丸をつけた屋根中央部の右側に玄関がある。

【写真説明・下】玉手山支部に移設後改築された玄関。赤丸の屋根中心部より左側に玄関がある。部材も大半が新調されている。

改造前

【写真説明・上】明主様御在世中の御神前。この写真は京都旧本部の御神前で、御神体のすぐ横に明主様の御尊影を安置し、この二つで一つの御神体とする「二位一体」という教祖在世中の正しい奉斎方式の御神前。

【写真説明・左】明主様御昇天後に改造された御神前。御神体だけが御神床に残り、明主様の御尊影は御神床の外の脇床に安置されている。